

沖縄の世界自然遺産を学ぶ

1 講座の内容

本年7月、ユネスコでの世界遺産会議により、奄美・沖縄が世界自然遺産に登録された。そもそも世界遺産とは何か、なぜ沖縄のやんばると西表島が登録されたかについて、沖縄の自然や希少生物たちを紹介しながら解説する。一方、登録によって観光客の増加や開発による自然環境への影響も懸念されている。沖縄の自然を県民の財産として守りながら活用していくうえでの課題についても考察する。

2 講座の概要

- (1) 講師 佐々木 健志 氏 (琉球大学博物館助教・国際地域創造学部非常勤講師)
- (2) 日時 令和3年10月18日 (月) 14:00～16:00
- (3) 場所 南部合同庁舎 4階 生涯学習推進センター会議室
サテライト会場：各教育事務所 (国頭、中頭、島尻、宮古、八重山)
※特別サテライト会場：多良間村、玉城青少年の家
- (4) 受講者数 54人 (PC視聴者含む)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
 - ・開会のあいさつ
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・閉会のあいさつ



3 成果

・新型コロナウイルス感染拡大防止対策による緊急事態宣言下で当初6月の予定が10月に延期になったものの、奄美・沖縄の世界自然遺産登録と合わせてタイムリーな企画ができた。世界遺産とは何なのか、登録基準や登録件数、奄美・沖縄が選ばれた理由、登録によるメリット・デメリット、地元の今後の課題など、画像や資料を用いてわかりやすく説明していた。

4 課題

・講座が4ヶ月も長期延期になったため、参加申し込み自体を忘れていたり、興味が持続しなかった方もいたためか、当日欠席者が多かった(15名)。
・世界遺産の定義や登録基準など前段階の話が長くなり、奄美・沖縄の自然遺産の内容については駆け足の説明になった。時間配分にもう一工夫が必要。